

(5) 教養コース

教科科目	科目の特徴	科目の目標
芸術と文明	21世紀初頭の一時期、人文学が軽視される風潮があったとしても、人文的知識は現代の人間が心豊かに生きていくために有用なものであり、このことは揺らぐものではない。本講義では、世界の歴史において各地域で展開した東西諸文明と、これを代表するすぐれた芸術作品～絵画・彫刻・建築・詩・小説・演劇など～をとりあげ、人類文化を考察する。	21世紀の世界を、教養をもって心豊かに生きていけるよう、長いスパンでの指導目標を実践していく。
実用英語Ⅰ	外国の人々とコミュニケーションをとるためには、英語の習得は欠かせない。海外はもちろん日本においても外国人との交流が盛んになり、今やどのような分野で活躍するにしても、英語の必要性は増している。授業では、様々なシチュエーションに基づいた「実際に使える英語」の習得をめざす。	授業では、海外旅行や留学をするときによく遭遇すると思われる、様々なシチュエーションに基づいた「実際に使える英語」の習得をめざす。
情報処理演習Ⅰ	コンピューターを常識として活用する能力「コンピューター・リテラシー」を養うことを目的とする。パーソナル・コンピューター及び情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるように授業を進める。	コンピューター及び情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができると共に、文部科学省後援の「文書デザイン検定」などの上級検定試験の合格をめざす。
社会福祉論	現代社会を生きる市民として、また福祉に関わる専門職やNPO、ボランティア等をめざす者として、必要不可欠な社会福祉に関する知識を習得する。具体的には、少子高齢化社会の現状と見通し、社会保障・低所得者福祉・児童家庭福祉・高齢者福祉などについて学ぶ。	社会福祉の理念やしきみ、実態と課題等について理解する。
リベラルアーツⅠ (日本語)	日本語を読み、書き、話す総合的な能力を、高等学校卒業レベルからさらに短期大学卒業レベルにまで引き上げ、豊かな言語能力を養う。基本的な漢字の習得、文章の読解から始まり、わかりやすい適格な文章の作成に至るまでを並行して学んでいく。言葉の豊かな世界を味わえるようになるための、基本的な能力を養成する。	日本語を読み、書き、話す総合的な能力を、高等学校卒業レベルからさらに短期大学卒業レベルまで引き上げ、豊かな言語能力を養う。
リベラルアーツⅡ (生活の数学)	生活の中での教養として求められる数学の知識を身につけ、一社会人として必要な数学的思考力の向上を図る。具体的には、代数・幾何・解析・確率及び統計などの基礎的・基本的な知識を培う。	卒業後、社会人として恥ずかしくないだけの数学的知識と教養を身につけられるようにしたい。
リベラルアーツⅢ (地理・歴史)	21世紀初頭の一部の高等教育において、一時的に人文学の価値が貶せられることがあったとしても、哲学・文学・歴史学など長い歴史を持つ広義の人文的知識は、現代の人間が人間として心豊かに生きていくための教養として滅びることはないであろう。本講義は長い目で学生のこれからの人生に有用となる人文的知識、なかでも歴史と地理の基礎的知識、とりわけ地元堺の歴史と女性の歴史を教授する。	短大生の教養としてふさわしい歴史と地理の知識、とりわけ地元堺についての理解を深める。
ゼミナールⅠ	少人数の編成でディスカッションを積極的に採り入れ、学生の自発的な参加による双方向性の授業を展開していく。指導教員の下、ゼミ形式で、あるテーマに関する研究発表や議論・講読やボランティア活動などを展開する。	課題発見能力・レポートにまとめる能力。プレゼンテーション能力を養う。

香粧品学	各種薬品の取り扱いや化学成分の特質を理解し、それらを安全かつ有効に化粧品を使用することができるようにする。具体的には化粧品・基礎化粧品・メイクアップ用化粧品・頭皮、毛髪用化粧品・芳香用品などの成分・原料や効用について学ぶ。	日常の化粧品や生活必需品の成分や特性を十分に理解し、安全に使用できることを目標とする。
キャリアデザイン演習Ⅰ	高等学校までに修得すべき国語(現代文・古典・漢文・文章の書きかた)・社会(地理・歴史・公民・政治経済など)・数学(公式・計算など基本事項)の内容について、基礎事項を改めて学び直して定着を図り、さらに短期大学士にふさわしい、より高度な内容を学んでいく。	短期大学士としてふさわしい社会人としての心構え・一般常識。就職試験に向けて必要となる数学・国語・社会(地理歴史)等の基本事項を修得する。